

商品名 リスペリドン内用液分包2mg「アメル」 医薬品基本情報

薬効	1179 その他の精神神経用剤	一般名	リスペリドン液
英名	Risperidone AMEL	剤型	液
薬価	36.60	規格	0.1% 2mL 1包
メーカー	共和薬品	毒劇区分	(劇)

リスペリドン内用液分包2mg「アメル」の効能・効果

統合失調症、小児期の自閉スペクトラム症の易刺激性

リスペリドン内用液分包2mg「アメル」の使用制限等

- 昏睡状態、中枢神経抑制剤の強い影響下、アドレナリン投与中<アナフィラキシー救急治療・歯科浸潤又は伝達麻酔除く>、類薬で過敏症の既往歴、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴
- 糖尿病又はその既往、糖尿病の危険因子を有する、低血圧又はその恐れ・疑い、心・血管系疾患又はその恐れ・疑い、不整脈の既往、先天性QT延長症候群、パーキンソン病、レビー小体型認知症、痙攣性疾患又はその既往、てんかん又はその既往、自殺企図の既往、自殺念慮、糖尿病の家族歴、高血糖、肥満、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、脱水状態、長期臥床、不動状態、腎機能障害、肝機能障害、高齢認知症

記載場所	使用上の注意
注意レベル	禁止

記載場所	使用上の注意
注意レベル	注意

リスペリドン内用液分包2mg「アメル」の副作用等

- 高血糖、高血糖悪化、糖尿病悪化、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、口渴、多飲、多尿、頻尿
- 悪性症候群、無動緘黙、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、死亡、腸管麻痺、食欲不振、悪心、嘔吐、著しい便秘、腹部膨満、腹部弛緩、腸内容物うっ滞、麻痺性イレウス、悪心を不顕性化、嘔吐を不顕性化、低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量増加、高張尿、痙攣、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、SIADH、AST上昇、ALT上昇、γ-GTP上昇、肝機能障害、黄疸、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症、不整脈、心房細動、心室性期外収縮、脳血管障害、低血糖、倦怠感、冷汗、振戦、傾眠、低血糖症状、無顆粒球症、白血球減少、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、息切れ、胸痛、四肢疼痛、浮腫、持続勃起症

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

3. 遅発性ジスキネジア、口周部不随意運動、不随意運動

記載場所	重大な副作用
頻度	5%未満

4. 食欲不振、不眠症、不安、アカシジア、振戦、構音障害、傾眠、めまい、ふらつき、流涎過多、便秘、悪心、嘔吐、筋固縮、月経障害、易刺激性、倦怠感、口渇

記載場所	その他の副作用
------	---------

5. 気管支炎、鼻咽頭炎、咽頭炎、肺炎、胃腸炎、感染、膀胱炎、耳感染、インフルエンザ、限局性感染、気道感染、鼻炎、副鼻腔炎、皮下組織膿瘍、尿路感染、ウイルス感染、蜂巣炎、扁桃炎、眼感染、中耳炎、爪真菌症、ダニ皮膚炎、血小板減少症、好中球減少症、アナフィラキシー反応、過敏症、高プロラクチン血症、高脂血症、多飲症、食欲減退、高尿酸血症、水中毒、抑うつ症状、被害妄想、精神症状、睡眠障害、自殺企図、徘徊、リビドー減退、神経過敏、気力低下、情動鈍麻、無オルガズム症、悪夢、睡眠時遊行症、パーキンソニズム、錐体外路障害、精神運動亢進、注意力障害、構語障害、よだれ、嗜眠、意識レベル低下、会話障害、舌のもつれ、味覚異常、記憶障害、てんかん、末梢性ニューロパチー、協調運動異常、過眠症、弓なり緊張、失神、平衡障害、刺激無反応、運動障害、意識消失、眼球回転発作、眼瞼痙攣、眼脂、結膜炎、網膜動脈閉塞、霧視、眼充血、眼瞼縁痂皮、眼乾燥、流涙増加、羞明、緑内障、術中虹彩緊張低下症候群、耳痛、回転性めまい、耳鳴、洞性頻脈、房室ブロック、右脚ブロック、徐脈、左脚ブロック、洞性徐脈、起立性低血圧、低血圧、高血圧、末梢冷感、末梢循環不全、呼吸困難、咳嗽、鼻漏、副鼻腔うっ血、睡眠時無呼吸症候群、口腔咽頭痛、鼻出血、肺うっ血、喘鳴、嚥下性肺炎、発声障害、気道うっ血、ラ音、呼吸障害、過換気、口内乾燥、胃炎、唾液欠乏、腸閉塞、痔炎、歯痛、糞塊充塞、便失禁、口唇炎、舌腫脹、皮膚そう痒症、湿疹、皮膚過角化、紅斑、ざ瘡、脱毛症、血管浮腫、皮膚乾燥、頭部乾癬疹、脂漏性皮膚炎、皮膚変色、皮膚病変、蕁麻疹、皮膚水疱、筋肉痛、筋力低下、背部痛、四肢痛、関節痛、姿勢異常、筋骨格痛、頸部痛、筋骨格系胸痛、筋痙攣、尿閉、尿失禁、無月経、不規則月経、女性化乳房、性機能不全、乳房不快感、勃起不全、月経遅延、希発月経、腔分泌物異常、乳房腫大、乳房分泌、気分不良、胸痛、顔面浮腫、末梢性浮腫、疼痛、不活発、浮腫、低体温、インフルエンザ様疾患、悪寒、薬剤離脱症候群、AST増加、血中クレアチニン増加、血中ブドウ糖増加、LDH増加、血中プロラクチン増加、血中ナトリウム減少、血中尿素増加、心電図異常、心電図QT延長、好酸球数増加、グリコヘモグロビン増加、血小板数減少、総蛋白減少、白血球数減少、白血球数増加、尿中蛋白陽性、ALP増加、ヘマトクリット減少、心電図T波逆転、血中尿酸増加、尿中血陽性、肝酵素上昇、尿糖陽性、転倒、転落、引っかかり傷、処置による疼痛

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

6. 貧血、食欲亢進、激越、うつ病、幻覚、躁病、妄想、緊張、錯乱状態、リビドー亢進、頭痛、ジストニー、鎮静、運動低下、立ちくらみ、ジスキネジア、無動、しびれ感、痙攣、仮面状顔貌、頭部不快感、錯感覚、眼調節障害、視力低下、頻脈、動悸、心室性期外収縮、上室性期外収縮、潮紅、鼻閉、嚥下障害、腹部膨満、胃不快感、下痢、腹痛、消化不良、上腹部痛、肝機能異常、多汗症、発疹、斜頸、筋痙攣、関節硬直、排尿困難、頻尿、乳汁漏出症、射精障害、無力症、疲労、歩行障害、胸部不快感、発熱、ALT増加、CK増加、血圧低下、血中トリグリセリド増加、 γ -GTP増加、体重増加、体重減少

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

7. 高血糖悪化、糖尿病悪化、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡、口渇、多飲、多尿、頻尿

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

8. 低血糖、脱力感、倦怠感、冷汗、振戦、傾眠、意識障害、低血糖症状

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

9. 起立性低血圧、低血圧、一過性血圧降下、QT延長、悪性症候群、錐体外路症状悪化、錯乱、意識レベル低下、転倒、体位不安定、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性、離脱症状、錐体外路症状、鎮静、頻脈、突然死、死亡率上昇、術中虹彩緊張低下症候群、嘔吐症状を不顕性化、乳腺腫瘍、下垂体腫瘍、膵臓内分泌部腫瘍

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

リスペリドン内用液分包2mg「アメル」の相互作用

1. 薬剤名等：パリペリドンを含む経口製剤

発現事象	作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤の活性代謝物はパリペリドン	指示	禁止

2. 薬剤名等：アドレナリン

発現事象	作用を逆転させ血圧降下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性 α 、 β 受容体の刺激剤であり、本剤の α 受容体遮断作用により β 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強	指示	禁止

3. 薬剤名等：中枢神経抑制剤

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤の中枢神経抑制作用	指示	慎重投与

4. 薬剤名等：ドパミン作動薬

発現事象	相互に作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤はドパミン遮断作用を有していることから、ドパミン作動性神経において作用が拮抗	指示	注意

5. 薬剤名等：降圧薬

発現事象	降圧作用が増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤の降圧作用	指示	注意

6. 薬剤名等：アルコール

発現事象	相互に作用を増強	投与条件	-
理由・原因	アルコールは中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

7. 薬剤名等：CYP2D6を阻害する薬剤

発現事象	本剤及び活性代謝物の血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤の薬物代謝酵素阻害作用	指示	注意

8. 薬剤名等：CYP3A4を誘導する薬剤

発現事象	本剤及び活性代謝物の血中濃度が低下	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤のCYP3A4誘導作用	指示	注意

9. 薬剤名等：CYP3A4を阻害する薬剤

発現事象	本剤及び活性代謝物の血中濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤のCYP3A4阻害作用	指示	注意

10. 薬剤名等：QT延長を起こすことが知られている薬剤

発現事象	QT延長	投与条件	-
理由・原因	QT延長作用が増強	指示	注意

11. 薬剤名等：アドレナリン含有歯科麻酔剤

発現事象	血圧降下	投与条件	-
理由・原因	アドレナリンはアドレナリン作動性 α 、 β 受容体の刺激剤であり、本剤の α 受容体遮断作用により β 受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強	指示	注意

リスペリドン内用液分包2mg「アメル」の配合変化

1. 薬剤名等：エトスクシミドシロップ

発現事象	混濁、沈殿、含量低下	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止

2. 薬剤名等：バルプロ酸ナトリウムシロップ

発現事象	混濁、沈殿、含量低下	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止

3. 薬剤名等：ヒドロキシジンシロップ

発現事象	混濁、沈殿、含量低下	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『DIR』

